

# 第1回 伊方町総合教育会議議事録

【日時】 平成29年11月17日（金）16:00～17:00

【場所】 伊方町役場3階 特別応接室

- 【次第】
1. 開会
  2. 町長あいさつ
  3. 教育長あいさつ
  4. 議題
    - (1) 伊方町教育振興に関する大綱について
    - (2) その他
  5. 閉会

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 河野達司

教育長職務代理者 阿部弘喜

教育委員 山口千穂

教育委員 阿部勇二

教育委員 藤川美喜

【事務局】 町長部局

濱松副町長、橋本総合政策課長、ほか担当職員1名

教育委員会事務局

大野事務局長

【傍聴者】 なし

## 【16時00分開会】

(橋本総合政策課長)

皆様お揃いでございますので、ただ今から、伊方町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、町長からご挨拶をお願いいたします。

(高門伊方町長)

第1回の伊方町総合教育会議にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。この会議は、法律の改正によりまして昨年の11月に設置をいたしました。その目的は、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本町の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層、町民の皆様のご意見を反映した教育行政の推進を図るためのものです。昨年の会議におきまして、「伊方町教育振興に関する大綱」を制定しまして、教育行政に取り組んでいるところでございます。

地域の宝であります子どもがよりふるさとを愛してもらうため、より良い環境の中で学習ができますように、行政として教育環境を整えて参りたいと存じます。本日の会議が有意義な会議となります事を心からお願いを申し上げまして、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、河野教育長からご挨拶をお願いいたします。

(河野教育長)

教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。町長さんにおかれましては、昨日の教育研究大会に引き続きまして、本日、教育会議を開いていただきましてありがとうございます。

昨年度、伊方町総合教育会議が設立されました。教育委員会といたしましても、具体的な教育施策の推進に日々頑張っております。年1回は教育会議を開いていただき、教育分野に関しまして様々な意見交換を図りたいと存じます。本日は、どうぞよろしくをお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。当会議の進行につきましては、私、総合政策課長の橋本が会議の進行を進めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。それでは会議を進めて参ります。本日は「伊方町教育振興に関する大綱」についてを議題といたします。まず、教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の取組状況について、事務局から説明願います。

(大野教育委員会事務局長)

教育委員会事務局長の私です。それでは、施策の方針に沿った本年度の取組状況について、ご説明いたします。

お手元にございます「伊方町教育振興に関する大綱」を2ページから御覧ください。この大綱には、4本の施策の方針がございます。この方針ごとに、29年度に教育委員会が重点的に取り組んでいる施策等について紹介させていただきます。

まず、施策の方針1の「学校教育の充実」に関しましては、保育所・学校と家庭、地域との「横の連携」の強化を図り、これからの時代に求められる「生きる力」の育成に重点をおいた教育を推進しております。

中学校では英語によるコミュニケーション能力の育成、小学校では英語学習による異文化とのふれあい、国際感覚を醸成するため、外国語指導助手（ALT）を適正に配置しております。

ICT情報教育につきましては、学習指導要領において学習指導におけるICT活用が謳われており、町では平成26年度から中学校への電子黒板の導入を始め、平成27年度には町内の小学校への電子黒板の導入及び全小学校児童にタブレットを導入、また、今年度は各小学校のパソコン教室の機器更新を行いましてICT教育の推進を図り、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上に繋げているところであります。

また、伊方町学校給食センターの効果的・効率的運用を図るため適正な施設整備を行い、児童生徒により一層安全・安心な給食を実施するため、給食センターを統合し新たな給食センターを新設いたしました。

次に、施策の方針2の「生涯学習・生涯スポーツの活性化」に関しましては、関連施設の再編を進めながら、各世代・各地域の要望に基づく学習活動の活性化と心身の健康増進につながる生涯スポーツの普及を図り、町民の主体性を発揮する機会が拡大しています。

今年度は、老朽化した三崎公民館を解体し、地区の活性化に資する活用を図る事としております。

また、えひめ国体を契機に、町民の生涯スポーツ振興とともに町の魅力を全国に発信する事ができました。

次に、施策の方針3の「伝統・文化の継承と発展」に関しましては、佐田岬半島の伝統文化と文化財を守りながら、地域の魅力づくりにつながる環境づくりを継続し、本町としての文化を創造するために、住民の文化活動を支援し、町内外にまちの魅力を発信できる人づくりと体制作りを推進しております。

また、地域と協働して地域文化の洗い出しにより、身近な歴史・文化を守り伝える意識を育むため、「地域博物館構想」の整備に向けた準備を継続しております。

最後に、施策の方針4「信頼と協働で創る豊かな地域社会の構築」に関しましては、人権教育の基底である同和教育懇談会の開催、地域社会に人権文化を根付かせる研修会・県外研修、企業や学校における研修や地域の学習活動への積極的

な参加を支援し、企業における人権尊重の職場づくりとともに学校の教職員と町民が一体となった人権・同和教育を推進しています。

また、計画に基づき、男女がお互いの人権を尊重しつつ、ともに喜びも責任も分かち合いながら、その個性と能力を十分に発揮しあい、皆が生き生き暮らせる男女共同参画社会づくりを推進しております。

以上が、施策の方針に沿った本年度の主な取組状況となっております。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。ただ今、教育委員会から教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の主な取組状況について説明がありました。

早速、議論に入りたいと思います。

それではこの大綱に基づいて、いかに本町教育の充実を図っていくか、これからは自由討論で行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。いかがでしょうか。

(阿部勇二委員)

私の立場から、学校教育の充実という事でお話させていただきます。年に1回ですが、学校訪問をさせていただく事になっております。各学校を全て訪問しますが、それ以外にも昨日の研究大会などにも参加しています。その時に施設を見たり、先生の授業を見たりする中で、本当にICTの活用は伊方町はトップクラスだなと感じます。先生方からも、どこへ行っても伊方町のICTは自慢できるとお聞きしています。電子黒板の導入、タブレットは小学生の全員に配布しています。私達はアナログの時代で黒板に慣れた授業しかなかったんですけども、電子黒板で書き、タブレットで書いた事が反映されており、授業を見てて本当にすごいなと思います。先生方も機器を駆使するのはいろいろ努力をされて、講習も受けられて、残業されながら進めている事と感じております。その中で、中学校のタブレットがまだ整備されていません。中学校からの要望もあって、小学校6年間でタブレットを使いこなしている子ども達が、中学校では数台しかないので、必要な時はグループに分かれてタブレットを使っているという事で、できればタブレットを導入していただきたらと思います。小・中学校がタブレットの授業を継続してできるというお話もありますので、要望を叶えてあげたいと思っております。

もう一点は、エアコンの事です。私達はエアコンのない環境で育ちましたが、今は外気温もものすごく高くなっている中で、非常に厳しい環境で授業をしております。エアコンの整備は、全国でも42%くらいはあると、愛媛県では13.2%、松山市は来年度から10ヶ年計画で全学校で実施するとなっております。先般の四国の会合では、高知市は来年度全校で整備する事となっております。そのような中で、伊方町もエアコンを整備していただきたい。四国大会の協議会の中で、文科省から説明があったんですが、エアコンを導入する事によって、夏休みの期

間を短縮して、その分を学校行事に充てる事ができるとお聞きしました。夏休みの期間を別の期間に自由に充てる事が、できるという方向に変わりつつあるという事です。そのためには、エアコンが無かったらそういう事はできないという事になります。ソフト・ハード本当に充実しているんですが、その上にそういう事も整備する時代なのかなと思います。町長さんのお考えを聞かせていただいたらと思います。

(高門伊方町長)

貴重なご意見をありがとうございました。議員さんからも学校へのエアコン、タブレット整備のご意見は出ております。整備を行う場合、導入費用やランニングコストも試算しながら優先順位を定めまして検討致したいと考えます。

(大野教育委員会事務局長)

中学生は200人余りです。全校生徒数のタブレットを入れたとして機器だけで2千万円程度です。Wi-Fiも合わせたりしますと見当がつかないので、タブレットだけですとそれくらいになります。

(阿部勇二委員)

昨日も校長先生と話したんですけれども、タブレットを持ち帰り活用できるようになれば良いのかなとおっしゃっていました。しかし、今の段階では家に持ち帰る事はできない。今後は、タブレットの中に学習教材や宿題が入るという時代が実際くるのかなと思います。

(高門伊方町長)

小学校1年生も使っていますか。

(大野教育委員会事務局長)

はい、使っています。

小学校3年生からローマ字入力で、キーボードに慣れるようにしています。本来にグローバルな社会に対応するために、今、教育が行なわれています。

(高門伊方町長)

財政面での協議を行い、前向きに検討させていただきます。

(山口委員)

給食費の無償化について、どうお思いになられているのでしょうか。

(高門伊方町長)

私の受け止め方は賛否両論あると思いますが、宇和島市議会で給食費の無償化については否決となった経緯があります。完全無償化というのはどうかなというのが正直なところですが、給食費への補助金措置から検討課題と考えています。財

政面も考慮しながら、優先順位を定めて検討して参ります。

(山口委員)

私達の時代には給食を食べさせていただくのが、ありがたいと思っていたぐらいでした。

(高門伊方町長)

町では、老人への配食サービスを一食500円で行なっています。給食費を無償にした場合、この事業との関連も出てきそうです。

給食費の未納は無いんでしょうか。

(大野教育委員会事務局長)

大半が以前の未納分です。その案件は、督促状で対応しています。

(阿部勇二委員)

奨学金の話ですが、地元に残る子ども、地元へ帰ってくる子どもへの奨学金の免除とか支払った後に町で補填するとかしていただけるとありがたいです。これからは何をやるにも、伊方町を守るとか残すためには、近い将来子ども達がいかにして帰ってくるかであり、それしかないと思います。そのためには、奨学金の制度とかその目線で町を守ることに繋げて考えていく事が、一番ありがたい事があります。

(阿部弘喜委員)

私も学校訪問を行っていますが、八幡浜市や他の学校を見ていますと、伊方町ほど環境に恵まれた教育機関は無いのではないかと思います。町外から異動で来られた先生もそう感じているようです。そういう風に充実されているのに、少子化で生徒が少ない。生徒の数が少なくなれば、部活動数も少なくなる。そして、自分のやりたい部活も行なえない。部活動自体も弱くなる。そういう事で、検討委員会でもどうしたらいいか、話し合いをしています。その中で、一つの方策として小学校のスポーツ少年団、今、伊方小で伊方小と水ヶ浦小の児童が一緒になっているんですかね。そういう風に一つにまとめてみる。伸び盛り子ども達にスポーツを楽しむという気持ちを持ってもらう。最近、中学校の総体でも伊方町は成績が悪いです。スポーツ指導員さんの導入も含めて、統廃合とかいろいろ考えて、活性化していく方向が無いかと思います。

(河野教育長)

指導員を導入するには、条例を整備しなければなりません。子どもが少ない人数でどうやって活動していくのかを考えないとなりません。中学校長には、部活の統合をどのように進めればいいのか検討を依頼しています。

(藤川委員)

部活を統合した場合、合同練習を行なうため、学校で移動バスを出してもらうのが一番ありがたいと思います。

(高門伊方町長)

まずは、どのように進めていくのか学校側で決めていただいて、配車などの行政支援をしていきたいと考えます。

(濱松副町長)

指導員を導入する事など学校のスケジュールがあり、町でどのような支援ができるか分からないため、学校からの提案をお願いしたいと考えます。また、地域の精通した方にどういう風に係わっていただくかが課題だと思います。

(阿部弘喜委員)

三崎高校への公営塾の導入は、良い事だと思います。三崎高校は県立高校で、伊方町に根付く人材をつくることは良い事だと思います。三崎地域に限らず、伊方・瀬戸地域でも同じ事が言えるのではないかと思うんです。対象年齢を下げてでも、人材を育てる公営塾のような制度をつくってほしいです。

(高門伊方町長)

三崎の公営塾には期待しているとの話も聞きます。高校からスタートして結果を出してから、その後の事は検討したいと考えます。九州の中津市では、地元の人達が公民館などに子ども達を集めて塾を開くなどしており、行政がそのサポートを行なっている事例もあります。

(藤川委員)

教育委員として今回初めて参加させていただいております。伊方町は、教育環境は整っていると感じました。しかし、学校には洋式トイレが2カ所ほどしかありません。学校は子ども達の学びの場だけではなく、地域の防災基地でもあります。洋式が無いと、子ども達も困っているという話も保健の先生から聞きます。お金のかかる事かもしれませんが、考えていただければありがたいなと思います。

(高門伊方町長)

分かりました。昨日も話をしましたが、九州の玄海町は小中一貫校で、男子トイレには小便器がありません。洋式トイレのみです。洋式に換えられるところは、検討していきます。

(藤川委員)

2011年度から小学校で英語が必修科目になります。ALT以外で英語のサポートをするような指導者を入れる考えがありますか。

(河野教育長)

A L Tさん以外にどういう方がいるのか、教えてください。

(藤川委員)

A L Tというのはあくまでも発音の指導です。A L Tの日本語力が無ければ、小学生に対して使うという英語を教える事はできないと思います。今いるA L Tが小学校に入って、低学年に英語力をつけるというのは難しいと思います。なぜなら、日本語力が無くては子ども達が理解できないからです。A L T以外で英語を指導できる方が、必要ではないかなと思います。

(濱松副町長)

A L Tが入ってきた時に、全然日本語が分からないのに、2年間指導したら帰国します。彼らも「かたこと」の日本語で帰るんです。来た一年前は生活様式も何も分からないのに、彼らが研修に来ている感じなんですね。

(藤川委員)

生きた英語は大事ですけど、日本語力が無かったら小学生に伝わらないと思います。

(河野教育長)

藤川委員が言われるのは仮にA L Tを入れるとしましょう。それだけではだめだという事ですね。補助員として日本人を入れるという事ですね。それでA L Tとの仲を持ってもらうという事ですね。

(藤川委員)

そういう事です。その補助員を町で雇うという考えはありますか。例えば、伊方町で育って英語教師になっている方がおられると思います。

今のA L Tの活用をもう少し考えたらなと思います。もちろん、A L Tにも意味はあるんですよ。これからグローバル人材を育てようというのであれば、A L Tを増やすだけではどうでしょうか。

(大野教育委員会事務局長)

それは本来であれば、先生がいいのですが。伊方町出身の方で聡明な方にA L Tさんとセットで指導してもらうのが一番ベストと考えます。

(河野教育長)

今のお話は、主に小学校を想定しているんですよね。

(藤川委員)

そうです。小学校で英語教育が始まるという事を前提に考えます。



(河野教育長)

とりあえず、来年度以降始まります。小学校3・4年生が、今5・6年生でやっているような英語活動が始まります。5・6年生が教科に入ります。3・4年生までは英語をしゃべって楽しく感じとる教育です。それにしても、小学校の先生が従来英語の免許を持っている人がいなので、まずは、県教育委員会から英語のできる先生を配置してもらわなくてはいけない。指導者は5・6年生の学担になつたらしないといけない事になります。

(阿部勇二委員)

中学校の英語の先生にとつたら、基本的な事をなぜこの人たちに教えさせるんだという気持ちがあると思います。基本が一番大事なのに、免許のない人がなぜ教えるのかという事です。

(河野教育長)

来年度からはとにかくなんとかしないといけないので、教育委員会としては小学校へのALTの導入というのを考えています。全部は無理として、各地域で1名ずつ導入していきます。今の中学校にいるALTを、もう少し小学校にまわす事も検討中です。

(濱松副町長)

英語教師について、地域おこし協力隊の募集を検討してはどうでしょうか。

(大野教育委員会事務局長)

昨日の研究大会の中で、小学校から英語を習っておけば、中学校の時、非常に役に立ちます。中学校の時に助かっておりますよという利点はあります。

(阿部勇二委員)

そういう人材をなるべく経済効果があるように地元の人を雇用したらと思います。将来、そこで嫁さんに来てもらえるような人材を。学校の教育支援員について、介助の必要な子ども、多動症であったり、発達障害であったり、授業を教えるのではなく生活態度を支援するという事で、教育委員会でも10名くらい募集していますが、いつも足りない状況です。支援員を必要とする子どもは年々増えています。職員待遇ではないため条件が悪く、中学校の指導員として募集していますが、結局1人しか来ていません。大学卒業して、英語や数学に長けた子どもはこういう仕事があるんだけど、条件が講師の方が良かったら講師になります。できるだけ雇用がほしかったら、給料面が大切になると思います。皆さん、生活のために働くので、支援員さんの給料は条件が悪いです。改善すればもう少し人が集まってくるのかなと思います。

(濱松副町長)

伝統文化の関係なんですが、年々お年寄りも亡くなっていきますし、少子化で祭行事を辞める地区もあります。そういうものをどうやって保存して継承していくのかです。保存するというのは教育の分野で重要だと思います。子どもの成長も大事ですが、消え去るものをどうやって保存・継承していくのか、抜本的に仕組みを考えなかったら、町見郷土館でも整備されているとは思いますが、そういうものをお願いしたいと思います。

(橋本総合政策課長)

活発なご意見ありがとうございました。皆さん方、他に無いでしょうか。  
最後に町長から閉会のあいさつをお願いします。

(高門伊方町長)

限られた時間ではありましたが、なるべく委員の皆さんのご要望に応えられるよう教育環境を整えていけたらと思いますので、今後ともいろんなご意見をお願いいたします。本日はありがとうございました。

(橋本総合政策課長)

以上で、伊方町総合教育会議を閉会いたします。  
本日は、ありがとうございました。